

罪を見つめる力

1月も終わって、2月に入りました。今月は14日から受難節(レント)に入ります。レントというのは、イエス様の苦しみを覚えるシーズンなんですね。イエス様は最後エルサレムで十字架につけられてしまうんですが、そのイエス様の苦しみ、またイエス様を十字架につけた人間の罪を覚えて悔い改めの内に過ごす、そうしてイエス様の復活を記念するイースターを迎える心の準備をするシーズンをレントと言います。「悔い改め」というのは「向きを変えること」、罪の方向を向いていたのを神様の方を向くように心を入れ替えることを言うのですが、今世界を見渡せば、ロシアとウクライナの間で戦争が続き、イスラエルとパレスチナの間でも争いが続いている、本当に私たち人間が心を入れ替えなければならないことを思われます。今年はレントの期間、世界中の人々に教会として悔い改めを訴えていきたいと願います。そして、今日も悔い改めというのをテーマにお話をしていきたいと考えています。

さて、そんな今日は聖書の中からルカによる福音書5:1～11を取り上げさせていただきました。どんなことが書かれてあったかな？皆で見てください。

これは、イエス様がペトロさんとヤコブさん、ヨハネさんを弟子にされた時のお話です。イエス様が湖のほとりに立っておられると、そのお言葉を聞こうとして人々が周りに押し寄せました。その時、二そうの舟が岸にあったのですが、イエス様はそのうちの一そうであるペトロさんの舟に乗って、少し漕ぎ出したところで人々に教え始められたのです。話が終わると、イエス様はペトロさんに言いました。「沖に漕ぎ出して網を降ろし、魚を取りなさい。」イエス様のこの言葉に、ペトロさんは困った表情です。「私たちは既に夜通し魚を取ろうとしたのに、だめだったんだけどな。」でもせっかくのイエス様のお言葉なので、ペトロさんは仲間とイエス様の言う通りにしました。するとどうでしょう。びっくりするぐらいたくさんのお魚が取れて、網が破れそうになったのです。ペトロさんはもう一そうの舟の仲間に合図して、助けに来てもらいました。結局二そうの舟が魚でいっぱいになり、船が沈みそうになるほどになりました。

この奇跡を目の当たりにして、ペトロさんも、その仲間のヤコブさんもヨハネさんもイエス様にひれ伏して言いました。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」でも、イエス様はペトロさんに言いました。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そして、3人をご自分の弟子にされたのです。

これが今日のお話です。魚がたくさん取れる奇跡を目の当たりにして、イエス様が本当に神の子、メシアであることが分かった時、ペトロさんもヤコブさんもヨハネさんもとても恐れ多くなりました。そして「自分から離れてください。わたしは罪深い者なのです」と、自分の罪深さを告白して、イエス様から離れようとしてしました。自分のことを振り返ってみれば、自分はイエス様のおそばにいていいような人間ではない、そう思ったのでしょう。でも、イエス様はそんな3人を御自分の弟子として、また御自分の愛と福音とを伝えていく器としてお招きになったのです。

「自分の罪をしっかりと見つめることのできる、そんなあなただからわたしの愛と福音とを伝えていくことができるんだよ。」イエス様は3人にそう言いたかったのかもしれませんが。福音書を読めば、イエス様の弟子になった3人がこの後自分の罪や弱さのゆえに色々な失敗を犯していくのが描かれています。理解が足りなくてイエス様に叱られたり、イエス様の十字架の出来事を前に逃げ出してしまったり……。でも、そこで終わらないんですね。復活のイエス様と出会って、己の弱さや罪をしっかりと見つめて、立ち直っていきます。そして失敗を重ねながら、それでもイエス様の愛と福音とを豊かに伝えていくのです。

私たちもまたイエス様の弟子であるわけですがけれども、イエス様の弟子の条件、「それは自分の弱さや罪をしっかりと見つめることができることなんだよ。それができてこそ、私の御用を豊かに為していくことができるんだよ」と、今日の聖書箇所からイエス様が私たちに諭しておられる声が聞こえてくるような気がいたします。

でも、それが本当に難しいです。子どもたちは「それができるのが大人なんじゃないの」って思うかもしれませんが、大人でも本当にそんなことができている人は稀だと思います。絶対に自分の非を認めない人っていうのはたくさんいますし、ニュースを見ていても、世界のお偉いさんたちが、人の命をたくさん奪うようなひどいことをしているのに、絶対に自分たちがおかしいとは認めない、自分の勝手な正義を主張して自分たちのひどいことを正当化しているのを目にします。おそらく人間が皆本当に自分の罪や弱さを見つめることができていたら、こんなひどい世界にはなっていないでしょう。偉そうに言う自分も、どれほど自分の弱さや罪を見つめることができているか、何かあるとついつい自分に都合の良い理屈を並べ立てて、自分を正当化する自分がいるのではないかと反省させられる思いです。

そんな中であってこの礼拝のひと時、私たち、改めて罪を見つめる力、弱さを見つめる力を神様に願い求めていきましょう。皆で悔い改めの輪を広げて、この世界に神様が望まれる平和を打ち建てていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——